

「まさか」は、

「現実」になる。

だから**備える!**

(写真) 2020年7月4日熊本県球磨村 (朝日新聞社提供) (水防訓練写真) ©瑞穂市消防団

洪水から守ろうみんなの地域

 **水防月間**

令和3年 **5月1日** 土 ~ **5月31日** 月

北海道は
令和3年6月1日 火 ~ 30日 水

主催：国土交通省、内閣府、都道府県、水防管理団体 (市町村等)

後援：警察庁、防衛省、総務省消防庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、一般社団法人日本新聞協会、一般社団法人日本民間放送連盟、日本赤十字社

協賛：全国水防管理団体連合会、公益社団法人日本河川協会、全国治水期成同盟会連合会、一般社団法人建設広報協会、一般社団法人全国海岸協会、公益社団法人全国防災協会、一般財団法人河川情報センター、全国建設弘済協議会

ハザードマップ

▶ <https://disaportal.gsi.go.jp/>



浸水ナビ

▶ <https://suiboumap.gsi.go.jp/>



川の防災情報

▶ <https://www.river.go.jp/>



DIMAPS (災害情報)

▶ <https://www.mlit.go.jp/saigai/dimaps/>



水防活動は恐ろしい水害から 安全な暮らしを守ります。

私たちの住んでいる日本は、雨量が多く、急勾配の河川が多い等の条件により、洪水が発生しやすい危険性をもっています。各地域では、昔から生命や財産を水害から守るため治水対策が行われていますが、多くの費用と長い期間が必要とされるので、まだまだ水害を根絶するにはいたっておりません。そこで、機敏な対応で水害を未然に防ぎ、また被害を少なくする「水防活動」が自分たちの地域を守るうえで重要な役割を担っているのです。

水防活動とは？

突然洪水などが起きたとき、人命や財産を守るため、その地域に住んでいる人々が様々な技術で被害を最小限に食い止めようと活動することを「水防活動」といいます。

水防活動は、みずからの地域をみずからの手で守るといった基本的な考え方をもとに昔から実施されています。

準備・出動



水防倉庫、通信の点検

出動時に備え、水防倉庫内の資器材(土のう、縄、スコップなど)を点検し、連絡体制の確認を行い、水害に備えます。



堤防巡視

危険箇所の早期発見とともに水防本部への現状報告をします。



©瑞穂市消防団

日頃の訓練

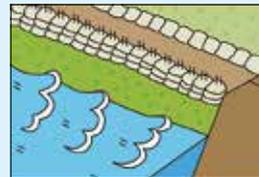
日頃から万一の水害に備え、スムーズに水防活動を行えるように、水防訓練を行っています。また、水防の技術的なリーダーの育成や水防技術の向上、若い世代への伝承のために水防技術講習会が催されています。

こうして守る
みんなの地域

水防活動

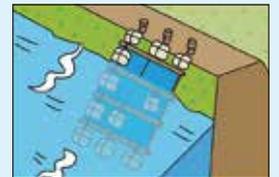
水防工法

状況に応じて最適な水防工法を実施します。堤防の決壊を未然に防いだり、水害を最小限に食い止めるのが目的です。



積み土のう工法

堤防の上に土のうを積み上げて、水が堤防を越えるのを防ぐ工法で、水防工法の基本ともいえる工法です。ひとつの土のうには、20~30kgの土や砂が詰められ、様々な工法にも使用されています。



シート張り工法

水の流れて堤防が削り取られたり、水が漏れたりしないように、防水シート(マット・畳等)を張って堤防を守ります。



木流し工法

水の流れが急なとき、枝葉のよく繁った木を川に流し、水の勢いを緩やかにして堤防が削られるのを防ぎます。



月の輪工法

堤防の裏側に水が漏れだしたとき、半円形に土のうを積んで、川の水位と漏れた場所との水位の差を縮めて圧力を弱め、水漏れが広がるのを防ぎます。

非常時・緊急時

水害発生の危険がある場合や水害が発生した非常時には、住民の皆さんに水防活動への協力などをお願いすることがあります。



水防活動への協力要請

協力要請があったときは、進んで水防活動に協力しましょう。



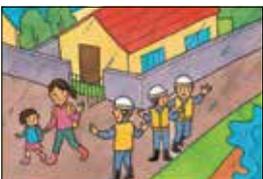
立入の制限

水防上必要のある場合、警戒区域を設定します。水防活動を速やかに行うため、堤防に車をとめたりしないよう協力してください。



公用負担

水防活動の現場で、一時的な土地の利用や、竹や木を使わせていただく場合があります。



立退きの指示

立退きの指示があったときは、あわてず騒がず指示に従ってください。

いざ! といふときのために、

家庭では

[事前の備え]

水害のリスクや避難場所 避難経路を事前に確認

- お住まいの場所などの想定される「浸水の有無」「浸水の深さ」「浸水の継続時間」について確認しましょう。
- 「早期の立ち退き避難が必要な区域」に位置づけられているか確認しましょう。
- 「どこへ」(避難場所)「どのように」(避難経路)避難すればよいか確認しましょう。
- 避難経路は安全に通行できるか(危険な箇所はないか)確認しましょう。
- 避難場所への移動にかかる時間について確認しましょう。
- 雨量や河川水位情報等の入手方法を確認し、普段から活用しましょう。

避難行動を事前に確認

- 洪水予報や避難勧告等の防災情報の種類や内容を確認し、「いつ」避難すればよいか、あらかじめ考えておきましょう。
- 避難時の持ち出し品について準備しましょう。
- 家族が離れているときの安全確認の方法をきめておきましょう。
- 避難訓練に参加しましょう。

洪水ハザードマップで「身のまわりの水害リスクや避難行動に必要な情報」を知る

「洪水ハザードマップ」は、想定される最大規模の降雨により、河川が氾濫した場合の浸水する範囲や水深、自治体が指定する避難場所、洪水予報や避難勧告等の種類と意味、避難時の心得等、洪水発生時に必要となる情報が記載されています。「洪水ハザードマップ」はお住まいの市町村のホームページ、または国土交通省ハザードマップポータルサイトから確認できます。



●国土交通省ハザードマップポータルサイト
▶<https://disaportal.gsi.go.jp/>

お住まいの市のハザードマップを確認できます

〇〇市 ハザードマップ 検索

浸水ナビで「自宅の浸水リスク」を知る

「浸水ナビ」は、堤防の決壊地点の設定、浸水していく状況、指定した地点における浸水の深さの時間変化等をアニメーションで表示できるので、避難計画を作る際に有効です。

「浸水ナビ」は、国土交通省ホームページ(「浸水ナビ」で検索)で確認できます。

▶<https://suiboumap.gsi.go.jp/> 浸水ナビ 検索



[台風や大雨が近づいたら]

気象情報や河川情報に注意

- 水害時に避難行動を取るためには、付近を流れる河川の水位の情報や雨量の情報、気象警報、洪水予報などを把握することが重要です。
- 河川の水位の情報は、国土交通省が提供する「川の防災情報」(右記URL)で確認することができます。あらかじめ水位観測所の位置や避難を判断するための目安となる水位(氾濫危険水位)を確認しておきましょう。
- 浸水後の避難は非常に危険です。早めに避難しましょう。
- 避難が必要と判断したら、家族や隣近所に声かけて、早め早めの避難行動を取りましょう。
- なお、河川の水位や雨量の情報は、テレビ、ラジオ、インターネットなどで入手できます。

川の防災情報で「洪水の危険度」を知る

「川の防災情報」は、全国の川の水位や洪水予報、レーダ雨量、カメラ画像などをインターネットを通じてリアルタイムに配信し、大雨などの際に避難判断等に必要となる情報を入手できるウェブサイトです。



▶<https://www.river.go.jp>

[被害が発生する前に]

身を守るための行動をとる

- 台風の接近や大雨が夜に予想されるときは早めに避難準備をしましょう。
- 不安に思っても、川や用水路の様子を見に行かないようにしましょう。
- 避難が遅れた場合は、近くの丈夫な建物の高い場所に避難しましょう。
- やむを得ず水の中を歩き避難する場合は、濁水で足下が確認できないため、杖等を持って移動しましょう。

DiMAPSで「最新の災害情報」を知る

「DiMAPS」は、被災地の空中写真、被害情報などが集約され、ほぼリアルタイムで地図上に表示されます。このため、最新の災害情報を迅速に把握し、共有できます。



▶<https://www.mlit.go.jp/saigai/dimaps/>

水害への備えをしましょう。

日頃からの備えが、いざというときに必ず役に立ちます。

ハザードマップでリスクを知ったら『マイ・タイムライン』の作成・検討!

マイ・タイムラインとは、台風の接近等によって、河川水位が上昇する時に、住民一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」・「何をするのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画です。

ステップ 1

知る

洪水ハザードマップを確認して、地域の水害リスクをチェック

ステップ 2

気づく

洪水時に得られる情報と、防災行動を時間軸で考える重要性を学ぶ

ステップ 3

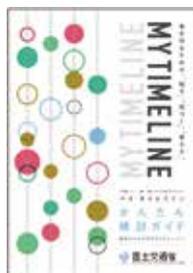
考える

洪水時の具体的な行動をシミュレーションする

マイ・タイムラインの検討は、洪水ハザードマップ等を用いて居住地などの自ら関係する水害リスクや入手する防災情報を**知る**ところから始まり、避難行動に向けた課題に**気づく**ことを促し、どのように行動するか**考える**場面を創出することが重要です。



検討ツール「逃げキッド」



かんたん検討ガイド



マイ・タイムライン作成・検討の様子

令和2年度の主な水防活動

令和2年7月豪雨など、梅雨前線や台風に伴う豪雨により、全国各地で洪水による被害が発生しました。そのような状況の中、水防団は、堤防からの越水対策として「積み土のう工法」、漏水対策として「釜段工法」などを実施し、人命の安全確保や被害の軽減に大きく貢献しました。



岩手県一戸町消防団 積み土のう工法を実施
(令和2年7月12日～13日:馬淵川左岸)



岐阜県岐阜市本荘水防団 釜段工法を実施
(令和2年7月8日:長良川左岸)



島根県川本町消防団 排水活動を実施
(令和2年7月14日:江の川左岸)



鹿児島県湧水町消防団 排水活動を実施
(令和2年7月6日:川内川左岸)